

哲学委員会いのちと心を考える分科会（第25期・第2回）
議事要旨

＊2021年1月30日開催、17時から18時40分まで

出席者：安藤泰至、石井哲也、一ノ瀬正樹、香川知晶、加藤泰史、小島優子、島菌進、鈴木隆泰、田坂さつき、土井健司、豊田光世、八木久美子、建石真公子、以上13名

土井委員長がレジュメを画面共有した後に田坂副委員長と共にそれに従って議事を進行した。

- 1) 前回議事録の確認が行われ、了承された。その際に学術フォーラムのアンケートの研究主体である柳原良江先生の名前の記載に関して、報告書は分科会名とし、問い合わせ先として柳原先生のお名前を記載する方向で事務局と調整することが確認された。
- 2) 田坂副委員長から、大規模ウェブ・アンケートについて現状では調査項目の洗い出しと調査のフローを作成している旨の報告があると同時に、2月20日にMLで案を共有し2月27日の分科会で調査案を審議して年度内にアンケートを実施するという計画の説明が行われた。石井委員からは、アンケートと24期提言との関係について質問があった。これに関しては執行部で方針を検討することになった。この際に建石委員よりフランスの事例が紹介された。
- 3) 提言の英訳に関して、田坂副委員長から説明があり、「いのちと心」を bioethics and the Humanities とする方向で収まることになった。ただし、定冠詞については執行部で検討することとなった。豊田委員から、英訳の問題点を近日中にファイルで送る、という申し出があり、執行部で最終案を作成して一ノ瀬委員が最終校閲をしてMLで諮ることになった。
- 4) 共著本に関して田坂副委員長から説明があった。提言と関連したテーマで8月末を締め切りとする予定が披露された。建石委員の参加が確認された。他の分科会との協力（武田委員・阿久津委員）やウィルキンソン論文の掲載などについて議論されたが、消極的な意見が多かったが、出版社との相談も含めて、編集委員会（土井委員・田坂委員・加藤委員・香川委員）に一任された。
- 5) 土井委員長より、今期の審議課題についての執行部提案が説明された。コロナ禍を何らかの仕方で取り上げることの説明がなされた。一部に批判もあったが、むしろより大きな図式の中にコロナの問題、特にコロナ・トリアージの問題を位置づけ直すという方向性に関しては大枠で了解が得られた。執行部で3年間の計画を立案することになった。2月27日に第3回の分科会を開催して一ノ瀬委員が研究発表を行い、そのあとで今後の計画に関して議論することになった。

以上